

## 第173回 東葛しぜん観察会

### 樹木の新緑と花の観察会

小島紀彦（我孫子）

日 時：2022年5月8日（日）9時30分～12時、天気：晴れ

場 所：県立柏の葉公園（柏市）

参加者：一般参加者：23名、指導員：14名（担当指導員：龍門・平田・小島 含む）

コロナ禍で観察会の中止が長くあり、久しぶりの東葛の観察会であった。未だコロナ感染の心配があり、参加者には受付で体温測定、手の消毒をして頂きました。

9時半に代表の挨拶からスタート。三班に分け、下見で決めていた樹木を主体に2時間ほど見て歩きました。5月は大きな樹木が花を開き、新緑と合わせ、観察会には最適な季節です。

最初に2016年に国交省の都市緑化計画の一環として「全国みどりの愛護のつどい」に千葉県が決まり、県立公園であるここ柏の葉公園が選ばれ、当時の皇太子・皇太子妃（今の天皇・皇后陛下）にご臨席を賜り、植樹された記念碑のある場所で、葉桜の河津桜を見ました。集合場所付近にアカマツがあり、枝に雄花、雌花が見られ、樹木の花は両性花のみでなく、色々な種類があると話をした。始めにヒトツバタゴ、ニセアカシア、ヤマボウシと続けて白い花を説明しながら見て貰う。なぜかこの時期は白い花が多い。その先には歩道横にクマシデ、アカシデがあり、果穂のぶら下がりを見た。枝が上の方にあり、見つけた人があそこ、あそこと指さすが、手近かで見られないのが残念。シデはしめ縄に使う四手だと説明する。トチノキは三角推の花が一杯あり、花の説明と事前に用意していた実を見て貰う。葉は大きく7～9個に分かれているが、一枚の葉で掌状複葉であることを伝える。メタセコイアとラクウショウの両方が見られる場所で、樹形が違う、球果を拾っての違い、葉は複葉でなく、一つ一つが単葉である、対生、互生の話。キリの場所では枝に紫色の花が一杯あり、地面にも落ちていて、匂いを嗅いで貰う。花札の12月はキリであり、絵札に鳳凰が描かれているが、何でかと聞く、昔からキリには鳳凰が宿るという話をした（中国の謂れ、実際はアオギリ）。モミジバフウの並木では右側は大きな樹になっているが、左側は若木の感じで幹も枝も細く小さいのを見比べ、同じ時期に植えても土壤や根の張り、陽当たりや水はけなどの環境によって成長が違ってくるとの話、近くによって枝に翼があるのを確認した。ここで水辺の向こう側にある樹々の新緑も含めた緑の色の違いを見て貰った。ユリノキの並木では顔をあげて、黄色いチューリップのような花を見る。ハルニレとアキニレが近くにあり、樹皮を見比べた。最後にハンカチノキに白い花（苞）が残り2～3個あり、見られてよかったですと感じました。最近は花の開花が早くなったりして、観察会で期待通りに見られるとは限らない、この為用意した写真の花を見ながら説明をして、実の実物など見せての説明は色々だが、きりがない。

天候に恵まれ、暑くもなく寒くもなく、参加者も多く、指導員には下見も含めて安全、時間配分、補足説明などサポートを頂き、二年ぶりに東葛定例の観察会も予定通りに実施できました。一般的の参加者にも満足頂けた感じで、無事に終えられました。

ご協力の皆さまには感謝致します。ありがとうございました。



6年前に植樹された葉桜の河津桜



ラクウショウの樹形・球果・葉の観察



モミジバフウの並木で右と左の違い